

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら



新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和8年7月22日発行

沼垂幼稚園112年目 大切にする2つの「一」と、1つの「二」 ★一人一人 ★一緒 ★無二

幼児教育は人生の土台です

園長 関根 秀也

6月12日、13日に、全国国公立幼稚園こども園長会総会・研究会岩手大会が開催され、私も新潟県の園長を代表して参加してきました。全国から盛岡市に600名を超える園長が集まり、各都道府県や各園の実践を紹介し合うことを通して、「幼児教育の質の向上」について学び合いました。そして、改めて「幼児教育の重要性」を感じました。

幼児教育が重要な理由は、幼児期に人格形成の基礎が培われるからです。建物でも、土台がしっかりしないとぐらつきが生じるように、人格も幼児期にどれだけしっかりとした土台ができていくかで、就学以降の育ちが変わるといわれています。幼児期は、周囲に対する信頼の感情を育み、3歳児になると動き回れるようになり生活環境を広げる中で、自分の衝動や感情を律する自律心を学んでいきます。なお、3歳位までは常に大人の見守りが必要です。大変ですが、この時期にしっかりと見守ってもらいながら生活習慣を身に付けた子どもたちは、自信をもって幼稚園などの集団の中で学ぶことにチャレンジします。もし、幼児期の土台ができていなければ、集団の中で過ごすことに不安を感じる場合があります。そのときは、焦らずゆっくりと子どもと関わるのが大切です。「幼稚園に入ったのだから」と、急に大人にしようとして無理をさせることは望ましくありません。目指す姿はあっても、幼児教育に到達しなければならない基準はありません。じっくりと子どもの成長を見守れるゆとりがあります。

先日、年少児がはさみで画用紙を黙々と切っていました。他の子どもたちは、ごっこ遊びをしています。私は「一人で寂しくないかな」と思いました。その後、切った画用紙をじっと見つめて、お気に入りの色と長さのものを取り出し、空き容器の中に入れました。担任は、無理にその子に対して「みんなと一緒に遊ぼう」と声をかけることはしません。そのことにより素敵なジュースができあがり、他の子どもたちもそれを見るために集まってきました。友達と遊ぶとは、お互いの気持ちが寄り添うことで成り立ちます。無理矢理一緒にしても、友達のよさは実感できません。幼児教育は、焦らず、ゆっくりと育ちを待つことができます。その時間をこれからも保障していきたいと考えます。

小学校以降の教育は、幼児期までに育ててきた土台を受けて、教科での学びを積み重ねていきます。そこでは、幼児期のようにゆっくり時間を使って学ぶ機会は減っていきます。それだけに、幼稚園にいる子どもたちの日々の生活はとても大切な時間です。ご家庭と幼稚園とで子どもたちをしっかりと見守り、これからの時代を生き抜く土台を一緒につくっていきましょう。





4月当初、登園時に園内から時々泣き声が聞こえたり、さみしそうな表情が見られたりすることがありました。そばにいてくれた「大好きなお家の人」が、自分を置いていってしまうのですから、子どもにとって大変なことです。しかし、その様子も減り、しばらくすると手を振って別れることができるようになります。子どもと教師の関係が安定したこともあります。ここに至るまでにはお家の方々の支えが不可欠です。後ろ髪を引かれることもあったことと思います。それをこらえて、降園時刻に温かく迎えに来ることで、子どもはお家の人との新たな信頼関係を学ぶことができます。そして、家庭に戻り、幼稚園の話をお家の人喜んで聞いてくれる姿を見て、子どもたちは「もっとお話できるようなろう」と次の日の活力にしていたかもしれません。このようにして、子どもたちは幼稚園という社会に踏み出し、大切な壁を乗り越えます。4月からの生活を振り返ると、子どもたちの成長には、必ずお家の方々の支えがありました。子どもたちの成長は、お家の方々の努力の成果です。子どもと向き合ってくださったことで、「自分でやってみよう」「友達や先生と一緒に楽しそう」「もっと〇〇したい」といった大切な力や心情が育ってきています。これからも、子どもたちの成長のために、ともに取り組んでいきましょう。閃く

これから長い夏休みに入ります。子どもと接する時間が増えます。子どもとゆっくり過ごす中で、子どもたちの新たな一面を発見して、夏休み明けに教えていただけることを楽しみにしています。

今月の「きらきらな笑顔」



避難訓練ごっこで、万が一に備えます



お兄さん先生は虫にくわしいね



お星さまにお願いをしました



やった！体が浮いたよ！